契丹小字の研究実態[1]

中国・内モンゴル大学　呉英喆

遼朝を建てた契丹人は10世紀の初めに意を表す契丹大字と音を表す契丹小字という二種類の文字をそれぞれ創造し、200年間余り使用していた。金朝の章宗皇帝の明昌二年（1991年）以後、その二種類の文字がだんだん廃棄され、未解読文字になった。興味深いことに、20世紀に初めになり、二種類の文字で刻まれた石碑が前後発見され、古い文字研究界の人々を驚かせた。今では、契丹大字の石碑は14件ぐらい発見したが、意を表す文字なので、その文字についての研究が余り進んでいない。この文では契丹小字の研究について紹介したい。

一、契丹小字の石碑資料

内モンゴル赤峰市にある遼慶陵（墓）が盗掘されたという情報を得て、1922 年 6 月 21 日にベルギーの宣教師L. Kervyn氏がそちらを視察する際、契丹小字で刻まれた「興宗皇帝」と“「仁懿皇后」の哀冊”を発見した。それは「契丹小字」を世の中に明らかにする始めての資料となった。1922 年から 1980 年代までに契丹小字の資料が合わせて以下のような 9 件発見され、その文字数は 9000 を超えている。以上の資料の拓本と解釈文は『契丹小字研究』[1]に収録されている。それらの資料を以下のように紹介する。

（1）「興宗皇帝哀冊」（1055 年）、L. Kervynが人を雇って書き写したもの。すべて36行あり、860余り契丹字が書いてある。原石碑はまた墓に埋められている。

（2）「仁懿皇后哀冊」（1076 年）、L. Kervynが人を雇って書き写したもの。全部 32 行あり、570ぐらい文字が書いてある。原石碑はまた墓に埋められている。

（3）「朗君行記」、金代 1134 年に書かれたもの。1925 年京都大学羽田亨教授は女真文字ではないことを初めて証明した。契丹小字と漢字が対訳した資料はこれしかない。原石碑は山西省乾県唐乾陵に立てられている。

（4）契丹小字「道宗哀冊」（1101 年）、37行で、1130余りの契丹小字がある。1930 年内モンゴル赤峰市にある遼慶陵から発見し、現在遼寧省博物館が収蔵している。

（5）契丹小字「宣懿皇后哀冊」（1101）、30行で、620あまりの契丹小字が刻まれてある。1930 年内モンゴル赤峰市にある遼慶陵から発見し、現在遼寧省博物館が収蔵している。

（6）契丹小字「故耶律氏銘石」（1115 年）、25 行で、700ぐらい文字が刻まれている。1962 年内モンゴルの赤峰市の翁牛特旗から発見し、現在赤峰市博物館に収蔵されている。

（7）契丹小字「蕭令公墓誌残石」（年代不明）、32 行で、600ぐらいの文字が刻まれてある。1950 年遼寧省阜新市の清河門から発見し、現在遼寧省博物館が収蔵している。

（8）契丹小字「許王墓誌残石」（1109 年）、64行文字があり、2150ぐらい契丹小字が刻まれてある。1975 年遼寧省阜新モンゴル族自治県から発見し、現在阜新市博物館に収蔵されている。

（9）契丹小字「蕭仲恭墓誌」、金代 1150 年書かれた墓誌。50行で、2490ぐらい文字が刻まれていある。1942 年河北省興隆県から発見し、現在河北省文物管理処に収蔵されている。

1980 年代以後、内モンゴルと遼寧省などで多くの契丹小字に関する石碑が出土することにより、契丹小字の資料も徐々に増えてきた。石碑以外に貨幣・コップ・石山などに書かれた資料も

[1] 基金項目：教育部人文社会科学重点研究基地重大項目「契丹小字再研究」（02JAZJD840007）、国家社会科学基金項目「契丹文釈読と契丹語文法研究」(06CMZ006)、内モンゴル大学高層次引進人材科研啓動基金項目「釈読契丹文探索契丹語文法」、教育部人文社会科学研究青年項目（06JC740009）。

いくつか発見された。今まで契丹小字の墓誌が30件が公開されているが、その多くの資料が清格爾泰教授の『契丹小字釈読問題』に収録されている。1980 年代以後に発見された墓誌や哀冊の簡単な情報は次のようである。

（10）契丹小字「耶律仁先墓誌」（1072 年）、70行で、5000 字もあり、今まで出土した資料の中で文字数が最も多いのほうである。1983 年遼寧省北票県から発見し、現在遼寧省文物考古研究所が収蔵している。

（11）契丹小字「海棠山墓誌残石」（年代不明）、13 行、300ぐらいの文字が書かれている。1991 年遼寧省阜新モンゴル族自治県の海棠山から発見し、現在阜新県文物管理所で収蔵されている。

（12）契丹小字「耶律迪烈墓誌」（1092 年）、41行、1740ぐらい文字が刻まれている。1995 年内モンゴル通遼市扎魯特旗から発見し、現在北京の遼金城垣博物館に収蔵されている。

（13）契丹小字「耶律弘用墓誌」（1100 年）の拓本。32 行850ぐらい文字がある。1995 年内モンゴル扎魯特旗から発見し、扎魯特旗文物管理所に収蔵されている。

（14）契丹小字「耶律宗教墓誌」（1053 年）、今まで発見された資料の中で、刻まれた年代が一番早い墓誌となる。33 行で、930ぐらい文字が刻まれている。1991 年遼寧省の北寧市から発見し、現在北寧市文物管理処に収蔵されている。

（15）契丹小字「耶律智先墓誌」（1094 年）、27 行で、1080文字がある。1998 年遼寧省北票県から発見し、現在北票市博物館に収蔵されている。

（16）契丹小字「耶律奴墓誌」（1099 年）、48 行、1270文字がある。1999 年遼寧省阜新モンゴル族自治県から発見し、現在阜新市博物館に収蔵されている。

（17）契丹小字「沢州刺史墓誌」残石（年代不明）、26行で230ぐらい文字がある。1994 年に内モンゴル巴林左旗から発見し、現在巴林左旗博物館に収蔵されている。

（18）契丹小字「博州防御使墓誌」残石（1170 年）、51行、1500 ぐらい文字がある。金代の墓誌で、今まで発見された資料の中で、刻まれた年代が最も遅れていたものである。1993 年内モンゴル敖漢旗から発見し、現在敖漢旗博物館に収蔵されている。

（19）契丹小字「耶律郎君墓誌」残石（1088 年）、43 行、1040文字がある。1996 年内モンゴル喀喇沁旗から発見し、現在喀喇沁旗博物館に収蔵されている。

（20）契丹小字「耶律（韓）迪烈墓志銘 」（1101 年）、34 行1350ぐらい文字がある。1996 年内モンゴル巴林左旗から発見し、現在巴林左旗博物館に収蔵されている。

（21）契丹小字「韓高十墓誌」（1078 年前後）、26 行750ぐらい文字がある。1995 年内モンゴル巴林左旗から発見し、現在巴林左旗博物館に収蔵されている。

（22）契丹小字「蕭図古辞墓誌」（1068 年）、26行、740ぐらい文字がある。2000 年遼寧省阜新モンゴル族自治県から発見し、現在遼寧省文物考古研究所が収蔵している。

（23）契丹小字「皇帝太叔祖哀冊」（1110 年）、25行、810ぐらい文字がある。1997 年内モンゴル巴林右旗から発見し、現在巴林右旗博物館に収蔵されている。

（24）契丹小字「宋魏国妃哀冊」（1110 年）、24 行、642ぐらい文字がある。1997 年内モンゴル巴林右旗から発見し、現在巴林右旗博物館に収蔵されている。

（25）契丹小字「蕭特毎墓誌」（年代不明）、35 行、810ぐらい文字がある。出土時間及び収蔵地など不明である。

（26）契丹小字「蕭大山と永清公主墓誌」（1095 年）、32 行、1370ぐらい文字がある。2003 年遼寧省阜新モンゴル族自治県から発見し、現在阜新県文物管理所で収蔵されている。

（27）契丹小字「耶律慈特墓誌」（1082 年）、28 行、880ぐらい文字がる。1997 年内モンゴル阿魯科爾沁旗から発見し、現在阿魯科爾沁旗博物館に収蔵されている。

（28）契丹小字「耶律貴墓誌残石」（1102 年）、31 行で、1100文字がある。2002年内モンゴ

ル巴林左旗から発見し、現在巴林左旗博物館に収蔵されている。

（29）契丹小字「室魯大師墓誌碑」（1100年）、13 行 154 文字がある。2000 年内モンゴル扎魯特旗から発見し、現在寧城県遼中京博物館に収蔵されている。

（30）契丹小字「梁国王墓誌」（1107 年）、29行、800あまりの文字がある。2000年遼寧省阜新モンゴル族自治県から発見し、現在遼寧省文物考古研究所が収蔵している。

（31）契丹小字「耶律副署墓誌」（1102 年）、51 行2000ぐらいの文字がある。1996 年内モンゴル阿魯科爾沁旗から発見し、現在内モンゴル文物考古研究所に収蔵されている。

（32）契丹小字「蕭敵魯墓誌」（1114年）、51行で、1400ぐらい文字がある。2007 年 5 月発見し、現在内モンゴル大学の民族博物館に収蔵されている。

（33）契丹小字「 墓誌」（1091年）、1500あまり文字がある。2007 年6月に発見し、現在内モンゴル大学の民族博物館に収蔵されている。

二、契丹小字に関する研究の新たな試み

今まで述べてきた契丹小字の資料の 31 件のうち、重ねて現れた文字を含めると、合計で 3.5 万字になる。このような膨大な資料をどのように整理すればよいのかという難題に直面した。統計するには伝統的な方法や手段でとても及ばないところである。このような作業を続ければ、時間がかかるばかりではなく、間違えるところも多く出てしまう。その問題を解決するため、 2003 年に内モンゴル大学はソフト会社と協調し、契丹小字をコンピューターに入力できるプログラムを作った。3 年間の努力によって、570 を超える契丹小字の「原字」（バリエーションを含む）のすべてをコンピューターに入力することができた。それによって、契丹小字の統計や検索は簡単にできるようになったうえ、契丹小字に関する書籍などの出版にも便利を提供することとなった。

（1）契丹小字の原字



以上の 576 の「原字」にはバリエーションがある以外に、石碑にない文字、つまり、先行研究で使用された文字も含めて入力作業をした。今まで発見された契丹小字の資料で実際に現れた「原字」は合計で 440 文字程度である。

（2）契丹小字原字の入力方法

契丹「原字」には筆画が最も少ないのは一つの筆画からなるー、丨、乙、丨がある。最も多いのは 10 筆画からなる𠂤、𢆶などがある。契丹小字「原字」の筆画が少ないという特徴に基づき、私たちは筆画入力方法を開発した。そして、筆画の数による入力方法も設けられたため、契丹小字「原字」の入力がとても簡単になり、使いやすくなった。契丹小字の「左右から上下」という手順で連続して書かれる特徴に基づき、「合成字」である場合、その入力方法としては、いくつかの「原字」を組み合わせて顕示する方法をとっている。具体的な入力方法は次の画面のとおりである。

（3）契丹小字の検索

すべての契丹小字資料をコンピューターに入力することが実現した後、一つずつの「原字」や「合成字」を検索できるソフトを開発した。

言うまでもないが、以上の入力方法や検索システムはまだ未成熟な段階にあるため、様々な課題が残っている。そのほかに 1900 の女真文字のデータベースも作った。現在契丹大字のデータベースも作っている。大字と女真文字の入力作業が終われば、検索システムに入れて、検索することもできる。

この検索システムは契丹小字の研究にとても役に立つと思われる。契丹字の他、拓本の画像、漢字資料、研究資料の検索などができるようになれば、これは最も重要な作業になる。

三、契丹小字研究者及びその成果

（1）1980 年代前

①契丹文字に関する研究は 1925 年に京都大学の羽田亨教授の「契丹文字の新資料」[2]という論文をきっかけに、契丹文字の研究が始まったと言われている。20 世紀の 30、40 年代のとき、中国の学者羅福成、王静如、厲鼎煃などが契丹小字と漢字を比較研究し、多くの論文を発表した。例えば：羅福成氏の「道宗皇帝及び宣懿皇后国書哀冊考」、王静如氏の「道宗皇帝及び宣懿皇后国字哀冊初釈」、厲鼎煃氏の「契丹国書略説」などがある。その時に発表された「遼陵石刻集録」[3]は契丹小字の研究に大きな影響を与えたとされている。

②1950 年代と 1960 年代には日本の契丹文字研究が前より盛んに行われていた。例えば：山路広明氏の「契丹制字研究」（1956 年）、村山七郎氏の「契丹字解読方法」（1951 年）、長田夏樹氏の「契丹文字解読可能性」（1951 年）などがある。そのほかに愛宕松男氏の「契丹文字解読について」などの多数の論文が発表された。その時に出版された田村実造、小林行雄の『慶陵一東モンゴリアにおける遼代帝王陵とその壁画に関する』[4]という著作は有名である。

その時に日本の学者たちは契丹小字の読み方を中心として検討し、数多くの論文を発表したのである。それらの論文はその後の研究の基礎ともなったと言われている。

③契丹小字に関する研究の代表的な作品は 1970 年代と 1980 年代に刊行出版された「契丹小字研究について」（論文）、「契丹小字新研究」（論文）、「契丹小字研究」（専門書）などがある。それは主に内モンゴル大学モンゴル言語研究所と中国社会科学院民族学と人類学研究所の清格爾泰・劉鳳翥・陳乃雄・於宝林・刑複礼などの学者によって編著したものである。上記の学者たちは契丹文字研究グループを成立し、契丹小字に対する総合的な研究を行った。そのグループの主な研究方法は契丹石碑資料にある漢語借用語の研究を通じて、多くの契丹「原字」の読み方を解読したことである。このグループの研究成果を紹介した文章が多数あるが、ここでは簡略させていただきたい。

（2）1980 年代以後

1980 年代以後、契丹文字研究グループの研究をきっかけとして、多くの学者が契丹文字の研究に興味を持ち、数多くの論文や著書が発表された。

この 30 年程の研究成果をみると、清格爾泰・陳乃雄・宝玉柱・包聯群及び筆者などは主にモンゴル語学の立場から、劉鳳翥・即実・於宝林・王弘力・豊田五郎・高路加・劉浦江・愛新覚羅・烏拉熙春などは主に歴史学の立場から、吉池孝一・聶鴻音・孫伯君などは主に漢語音韻学の視点からそれぞれ検討している。

統計によると、1980 年代以後、230 余りの論文や著作が発表されている。次にその中の代表的な学者とその成果を簡単に紹介しる。

①清格爾泰：内モンゴル大学の教授、契丹文字研究グループのメンバーとして活躍した。清教授は「契丹小字動詞附加成分」、「契丹語の数字及び契丹小字の併読方法」、「契丹語十二支の読み方」などの多くの論文を発表した以外、『契丹小字釈読問題』[5]という本も出版している。清教授は 1970 年代に契丹文字に母音調和がある規則に気づき、それはアルタイ語と類似するということを主張した。その規則にしたがえば、契丹「原字」の読み方をさらに解読することができると期待される。

②劉鳳翥：中国社会科学院民族学と人類学研究所の研究員、1970 年代の契丹文字研究グループのメンバーである。今まで契丹文字研究に関する論文を多数発表している。1980 年代以後に新たに発見された石碑資料のほとんどは劉氏によって掲載されたものである。劉氏は主に契丹文字を漢語石碑と「遼史」などと比較しながら研究を進め、数多くの漢語借用語を解読し、契丹文字の研究に大きく貢献した。『辺訪契丹文字話拓碑』[6]は劉氏が契丹文字の資料を集めた過程を詳しく説明したもので、それは契丹文字の研究に欠かせない参考文献である。

③即実：遼寧省社会科学院研究員、1980 年代から、契丹文字に関する論文を多数発表した。今までの代表的な作品は『謎林聞径一契丹小字解読新程』[7]である。即実氏は歴史学の視点から、契丹文字墓誌に対して細かく検討し、漢語借用語のほか、モンゴル語とも比較研究を行い、数多くの契丹文字を解読した。

④陳乃雄：内モンゴル大学の教授、契丹文字研究グループのメンバーである。「近十年我が国の契丹字研究 」、「契丹小字数詞“影子字”探」、「契丹字銭辨」、「雲南の契丹族後裔と契丹字依存 」、「烏日根塔拉陵墓出土契丹小字墓誌銘考釈」などの多数の論文を発表したほか、右の画像のように東京大学の博士課程の包聯群と協力して『契丹小字研究論文選編』[8]という本を出版した。この本には 1930 年代から 1990 年代までの契丹文字に関する研究の代表的な論文を 44 本収録した。この本は契丹小字の研究に重要な参考文献となる。

⑤以上の論文と著書以外に、契丹文字に関する研究の専門書ではないが、契丹文字の研究にとても役に立つとされている本は以下のようである：於宝林教授の『契丹古代史論稿』[9]という本は漢語古典書籍に記載している契丹語の単語を数多く集めて紹介している；向南研究員の『遼代石刻文編』[10]という本に契丹小字の解読に関する漢語石刻文献がたくさん収録されている。

そのほか立命館アジア太平洋大学の教授愛新覚羅・烏拉熙春氏は契丹文字に関する論文を多く発表しているそうである。例えば、「契丹言語文字研究」、「遼金史と契丹女真文」、『契丹文墓誌より見た遼史』[11]などがあげられる。また、2005 年 10 月に本人が執筆した「契丹語静詞語法範疇研究」[12]も発表された。

四、契丹小字における若干規則

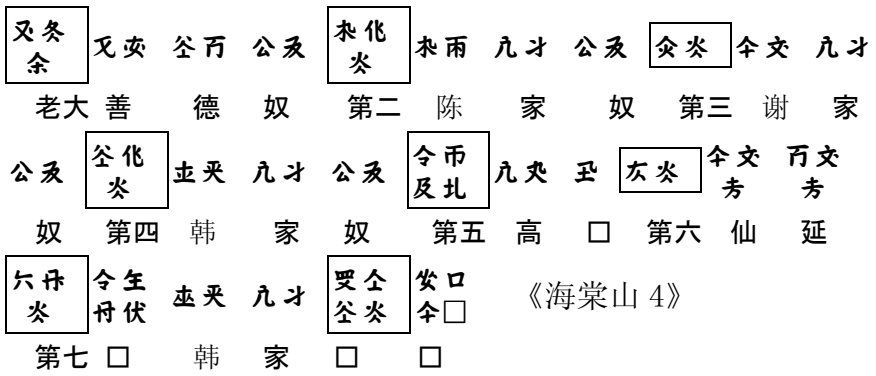
契丹小字に関する研究は、中国と海外の多数の研究者により、大きな成果をあげていると言える。最近の統計によると、430 を超える「原字」の半分以上の読み方を明らかにさせ、およそ 1300 の単語（すべての単語の 10%を占める）の意味が解読され、十数種の接辞と一部の文の意味を知ることができた。

その中でもっとも興味深いことは、学者たちが契丹小字におけるいくつかの規則を分かったこ

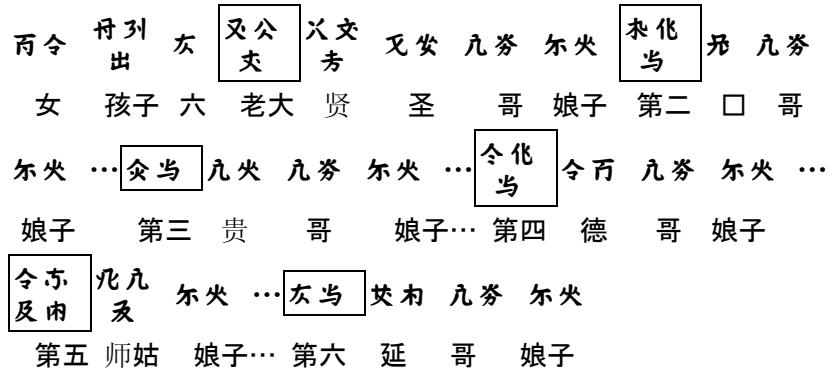
とである。例えば、1970 年代に母音調和があることに清格爾泰教授が気づき、1980 年代は高路加教授は“数”の調和があることを論証した。以上のような二つの規則がある以外に、最近は次のような四つの規則が発見されている。

(1)“性”文法範疇

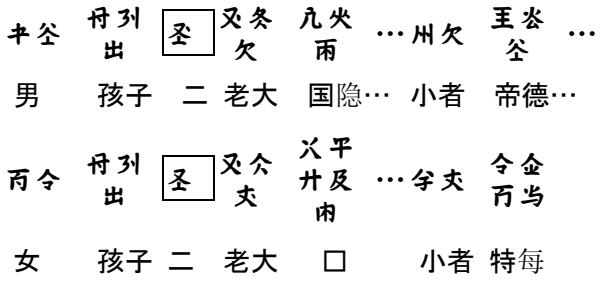
契丹語に“性”という文法範疇を持っていることについて本人が「契丹小字“性”文法範疇初探」[13]にて検討したことがある。その論文では契丹文字の序数詞の語尾が性別によって異なることを論じた。例えば、男性を示すときの序数詞の語尾が次のようである。



それに対応して、女性を示すときの序数詞の語尾が次のようで、男性と全然違う。



本論文の主張は愛新覚羅・烏拉熙春教授の見方と一致していることを後に分かった。その後、引き続き発表した「契丹小字“性”文法範疇再検討」[14]という論文では、主に契丹小字の“性”の表す方法を検討した。即ち、「数詞＋名詞（男、女に関する）」というフレーズの組み合わせでは、もし名詞が“男”を示す場合、その数詞を示す「原字」に点をつける。“女”を示す場合は数詞を示す「原字」に点をつけない。例えば:



(2)“父と息子”の連名現象

北京大学の劉浦江教授と博士課程の康鵬氏は「契丹名字初釈―文化人類学の視野下の父と息子制度」[15]という論文では、契丹人が名前をつける際、長男の幼名は父の第二番目の名前と同様な語根を持つ習慣があると指摘している。そして、二人の名前の関係は、父の第二番目の名前から所属格を除けば、長男の幼名になる。例えば:

	長子第二名	長子小名	父親第二名	父親小名
耶律吼父子	𘬀𘬁𘬂（斜寧）	𘬃𘬄（何魯不）	𘬃𘬄𘬂（曷魯本）	𘬅𘬆（吼）
耶律奴父子		𘬇𘬈𘬉（國隱）	𘬇𘬈𘬉𘬂（國寧）	𘬊𘬋（奴）
耶律瑰引父子	𘬌𘬍𘬎𘬂（糺鄰）	𘬏𘬐（查剌）	𘬏𘬐𘬑（查懶）	𘬇𘬈𘬉（瑰引）
蕭撻不也父子	𘬒𘬓𘬂（兀古鄰）	𘬔𘬕𘬖（特末）	𘬔𘬕𘬗（特免）	𘬘𘬙𘬚𘬖（撻不也）
耶律拔里得父子	𘬛𘬜（留隱）	𘬝（海里）	𘬝𘬜（孩鄰）	𘬞𘬟（拔里得）
耶律解里父子	𘬠𘬡𘬢𘬜（乙信隱）	𘬣（直魯姑）	𘬣𘬜（直魯衮）	𘬝（解里）
耶律牙里果父子		𘬤𘬥𘬦（敵烈）	𘬤𘬥𘬗（敵鞏）	牙里果
耶律隆祐父子		𘬧𘬨（胡都古）	𘬧𘬨𘬂（胡都堇）	高七
耶律鐸軫父子		𘬤𘬥𘬦（低烈）	𘬤𘬥𘬗（敵鞏）	鐸軫
耶律李胡父子	完德	喜隱	奚隱（寧?）	李胡

(3)"母音の付加方法"

ご存知のように、古代トルコ文字には母音を付加して読む規則がある。1950 年代に日本の学者村山七郎は契丹小字と古代トルコ文字が互いにある程度の関係をもつと主張した。しかし、村山氏の研究は文字の形だけに限ったものであるため、それが契丹小字と古代トルコ文字の関係を十分に説明できるものではなかった。従って、多くの学者はその主張を賛成していない。それらを詳細に検討してみると、契丹小字と古代トルコ文字は併読方法においては関係があることを否定できないと思われる。

筆者は「契丹小字中の母音付加方法」[16]という論文では、子音で始まる「原字」には、その前に母音を付加して読む規則があることを主張する。先行研究によると、「原字」 は[sə]と[es]、 は[bu]と[ɑb]、 は[ir]と[ri]、 は[is]と[si]というふうにそれぞれ二種類の読み方を持っている。このように一つの「原字」には二つの読み方がある。即ち、母音を子音の前に置くか、あるいは後におくかなどの区別がある。もしその読む規則を他の「原字」に使ってみると、面白いことに、一部の「原字」の読み方がモンゴル語とよく似ていることが分かる。

契丹字	意味	以前の読み方	母音付属後の読み方	モンゴル文字	読み方	意味
𘬃	女性、母	[mo]	[əm]	𐲃	[əm]	女性、母
𘬇𘬈 𘬃	祖母	[məgu][mo]	[əməgu][əmo]	𐲇𐲈 𐲃	[əməg][əm]	祖母
𘬅	父	[pu]	[ɑp]	𐲅	[ɑ:p]	父
𘬆	これら	[də]	[əd]	𐲆	[əd]	これら
𘬄𘬉 𘬂	阿保謹	[pəgin]	[ɑpəgin]			

（4）“-p、-t、-kの入声末音”の存在

契丹小字の漢語借用語に“入声末音”が存在していたかどうかについて研究者の意見が異なっている。筆者の「契丹小字中漢語入声音尾の痕跡」[17]という論文では、契丹小字の漢語借用語に“入声末音”の「ーp、ーt、ーk」の痕跡が残っていることを論じた。

入声音尾	契丹字	意味	読み方	漢字	各時代の読み方			結論
					上古音	中古音	近代音	
-p		“臘月”の“臘”	[lɑp]	臘	lap	lɑp	la	 =p
-t		族名“耶律”	[yilɑut]	律	lĭwət	lĭuĕt	liu	 =t
		人名“迪烈”	[dolt]	烈	lĭat	lĭɛt	liɛ	 =t
-k		族名“阻卜”の“卜”	[ʧĭopuk]	卜	pɔk	puk	pu	 =k
		“銭帛”の“帛”	[buk]	帛	beak	bɐk	pai	 =k

[1] 清格爾泰など:『契丹小字研究』、中国社会科学出版社 1985 年 8 月。
[2] 羽田亨:『契丹小文字の新資料』、『史林』10 巻第 1 号, 1925 年 1 月。
[3] 金毓黻編录:『辽陵石刻集录六卷』, 奉天図书館刊, 1934 年 4 月。
[4] 田村実造、小林行雄:『庆陵ー東モンゴリアにおける遼代帝王陵とその壁画に関する』、日本:座右宝刊行会版、1953 年 3 月。
[5]清格爾泰:『契丹小字釈読問題』東京外国語大学 2002 年3月。
[6]劉鳳翥:『辺訪契丹文字話拓碑』華芸出版社、2005 年 8 月。
[7]即実:『謎林聞径ー契丹小字解読新程』遼寧民族出版社、1996 年 1 月。
[8]陳乃雄、包聯群編:『契丹小字研究論文選編』内モンゴル人民出版社、2005 年11月。
[9]於宝林:『契丹古代史論稿』、黄山書社 1998 年 10 月。
[10]向南:『遼代石刻文編』、河北教育出版社、1995 年 10 月。
[11]愛新覚羅・烏拉熙春:『契丹文墓誌より見た遼史』、松香堂書店 2006 年 10 月。
[12] 呉英喆:「契丹語静詞語法範疇研究」、博士論文、2005 年10月。
[13]呉英喆:「契丹小字“性”文法範疇初探」、「内モンゴル大学学報」2005 年第 3 期。
[14]呉英喆:「契丹小字“性”文法範疇再検討」、「モンゴル学集刊」2005 年第 2 期。
[15]劉浦江、康鵬「契丹名字初釈ー文化人類学の視野下の父と息子制度」、「文史」2005 年第 3 期。
[16]呉英喆:「契丹小字中の母音付加方法」、「漢字文化」2007 年第 3 期。
[17]呉英喆:「契丹小字中漢語入声音尾の痕跡」、「モンゴル学集刊」2006年第4期。